



白門祭の本番は11月!!



白門祭実行委員会事務局長
ひろまさ
山本大将さん (総合政策学部3年)

本番まで4カ月

初めまして。第50回白門祭実行委員会事務局の事務局長を務めています山本大将です。代表になって、は

や半年。祭り本番まで4カ月と差し迫って焦りが出てきているのと、記念すべき50回を迎えられる楽しみで、日々充実しています。

さて残り4カ月というわけですが、白門祭実行委員(以下、白実)に所属していない人からみれば、「本番まで何をしているの?」「いつも忙しそうだけど?」とか正直謎めいたサークルだと思うので、今回はちょっとばかり今まで何をしてきたか紹介したいと思います。

サークルは4つの部局に分かれていて総務部、企画部、渉外部、編集部

スーパー白実マン

真面目オタクが多い総務部はつい最近まで団体受付、つまり第50回に屋台や企画を出したい団体やサークルの受付を終え、その後処理をしている最中です。

彼らはスーパー白実マン。祭りの要となる業務、運営を担ってくれる頼れるヒーローです。総務の1年生はこの時期、装飾案を出すのに苦戦し、夏休みにはその製作で忙しくなります。

次が変わった人が多い企画部。私も昨年はこの部の部長をし、そこから事務局長へ引き抜かれました。今



第50回 白門祭に向けて

第50回 白門祭
11月3日(木)~6日(日)
多摩キャンパス

第50回 大学祭
11月4日(金)~6日(日)
後樂園キャンパス

年はモザイクアートや出店のコンテンツをステージで披露する出店王という企画を新たに練っています。

芸能人をゲストに招こう、誰がいかなーといった楽しい会議もありますが、企画書を出しても先輩に突き返される地獄のような会議もあります。夏休みは企画のリハーサルでほぼ大学にいることになります。

次はワイワイ盛り上がり系が多い渉外部。主に学外への宣伝を担当しており、前期に構内で情報宣伝(情宣)することが多く、過酷なビラ配りの真っ最中です。ビラはぜひ、もらってください。今年はLINE@の導入を企画していて、どれだけ多くの人をこの祭りに招くかを考えています。

渉外部では夏のオープンキャンパスで1年生中心に企画を行っています。例年はメッセージカードを貼る

絵馬的なものを企画していますが、今夏はどうなるでしょうか。

最後にほんわかお花畑系編集部。編集部はビラ、ポスター、パンフレットといった製作物を主に担当しています。この時期は白実が行う宣伝の媒体物を作ることで、てんてこ舞いする状況です。

このような情宣物はいわば外部の顔、行きたい！と思ってもらえるものを作成するためプレッシャーは大きいですが、編集部独特のほんわかしたメンバーで乗り切っていてくれるでしょう。

本番まではまだまだ時間があるように思える当サークルですが、実は意外と仕事が多いものです。

楽しさを見出す毎日

私、局長の仕事というと、本祭当日のソフトをそろそろ組み始める時期です。事務作業が多く、まったく

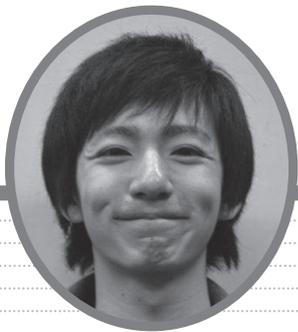
楽しくないものですが、このサークルをコントロールできる仕事なので、なんだかんだ楽しく仕事をしています。

ただ、代表という立場でやることが多いため、大学でしかかったバンドをやめなければならないのが唯一辛いところ。

もともとルナハワイアンというバンドサークルに所属しており、ステージに立つのが入学時の夢でしたが、白門祭期間中、私はスーツを着て運営に携わっているので残念ながら叶わぬ夢となってしまいました。

その悔しさもある分、自分が代表になって良かったと思えるよう、これからも活動していきたいと思います。

それでは第50回白門祭と白門祭実行委員会をどうぞよろしくお願い致します。



STAFF VOICE



白門祭実行委員会委員長
杉江勇樹さん (法学部3年)

最高の白門祭、届けます

50回という節目である本年度の委員長を務めさせていただくことをうれしく思う一方、自分にできるのかという不安でいっぱいです。しかし山本と真中をはじめ、自分には周りに大勢の信頼できる仲間がいます！この仲間と、そして中大生のみなさんと、ともに最高の白門祭をお届けします！

白門祭実行委員会総務部長
真中悠さん (文学部3年)

来てよかった、 と言われるように

50回を迎える白門祭ですが、われわれの行うことは変わりません。『来てよかった』とってもらえること、それだけがわれわれの求める賛辞であり、目標です。これまで通り、これからも目標に向かって発展を積み重ねていきます。

メンバーになるには

白門祭実行委員会メンバーになるには、4月上旬に行われる入局説明会に参加。面接を経て、正式に白門祭実行委員会入りが決まる。

その後、希望する活動部局総務、企画、渉外、編集の4部局で構成)を選択するため、4月下旬の部局説明会に参加する。

白門祭 50 回の歴史

白門祭は1956年以降、学生が組織する白門祭実行委員会が主催団体となり、運営されてきた。1969年ころから大学紛争が起り、主催団体が崩壊したため、一時開催を見送った。復活は1975年、大学主催のもとで大学祭として行われた。

大学は1994年以降、「白門祭実行委員」を大学祭主催団体としての公認化を検討し、2000年に「白門祭実行委員」を多摩キャンパスにおける大学祭(白門祭)を主催する団体として公認、現在に至る。

後楽園キャンパスでは主催する大学が、運営を「理工白門祭実行委員」に委託している。



昨年の白門祭
(多摩キャンパス)
風船にたくさんの
思いを込めて

● 第1回白門祭開催時、1956年の主な世相 ●

- 2月 「週刊新潮」創刊、のちに週刊誌ブーム
- 3月 日本住宅公団が入居者を初募集
- 5月 「水俣病」と公式発表される
- 7月 「もはや戦後ではない」と経済企画庁が経済白書で記す
- 10月 日ソ国交回復で共同宣言調印
- 12月 日本が国連に加盟



昨年の白門祭(多摩キャンパス)参加を呼びかけるスタッフ